

5. 派遣・受入れ研究者数の在籍研究者数に対する比率の比較

本章では、平成 24 年度における派遣・受入れ研究者数の在籍研究者数に対する比率の比較を、機関種類別、専攻分野別、職位別、性別で行う。

5.1 機関種類別

(1) 短期

表 5-1 が示すように、短期の派遣研究者数の在籍研究者数に対する比率については、国立大学が最も高く、102.2%であり、独法等も 101.2%であり同程度である。

在籍研究者数を短期派遣研究者数が上回っているが、本調査における定義では、派遣研究者数は、複数の国を訪問した際にはその都度カウントされること、1 人が複数回派遣された場合にもその都度カウントされる (延べ人数) ことに留意が必要である。続いて、大学共同利用機関 (79.5%)、公立大学 (50.2%)、高等専門学校 (42.6%)、私立大学 (30.6%) の順である。

短期の受入れ研究者数については、大学共同利用機関が最も比率が高く、51.1%である。在籍研究者数の約半数の研究者数を海外から短期の期間受け入れていることになる。続いて、国立大学 (17.1%)、独法等 (12.6%)、公立大学 (4.1%)、高等専門学校 (1.8%)、私立大学 (1.7%) の順番である。

表 5-1 派遣・受入れ研究者数の在籍研究者数に対する比率 (機関種類別) (短期)

	在籍研究者数 (人) (a)	派遣研究 者数 (人) (b)	派遣研究者 数比率 (b/a)	受入れ研究 者数 (人) (c)	受入れ研究 者数比率 (c/a)
国立大学	81,851	83,616	102.2%	13,980	17.1%
公立大学	15,166	7,609	50.2%	626	4.1%
私立大学	153,869	47,146	30.6%	2,579	1.7%
大学共同利用機関	4,941	3,929	79.5%	2,525	51.1%
高等専門学校	2,375	1,012	42.6%	43	1.8%
独立行政法人等	16,866	17,068	101.2%	2,119	12.6%

注) 研究者数は、本調査の在籍研究者数 (3 章) のデータであり、常勤と非常勤を含む。

(2) 中・長期

中・長期の派遣については、国立大学と大学共同利用機関についての比率が最も高く 3.3%であり、後は、独法等 (2.9%)、高等専門学校 (1.7%)、公立大学 (1.3%)、私立大学 (1.0%) の順番である。

中・長期の受入れについては、国立大学の比率が最も高く、9.4%である。独法等も同程度であり9.2%である。大学共同利用機関（6.6%）、公立大学（3.9%）、私立大学（3.3%）、高等専門学校（1.9%）が続く。

私立大学は、大学種類別で比較すると、派遣・受入れ研究者の人数のシェアは大きいですが、在籍研究者数に対する比率については、高くはないことが分かる。

表 5-2 派遣・受入れ研究者数の在籍研究者数に対する比率（機関種類別）（中・長期）

	在籍研究者数 (人) (a)	派遣研究 者数 (人) (b)	派遣研究者 数比率 (b/a)	受入れ研究 者数 (人) (c)	受入れ研究 者数比率 (c/a)
国立大学	81,851	2,735	3.3%	7,655	9.4%
公立大学	15,166	204	1.3%	591	3.9%
私立大学	153,869	1,536	1.0%	5,025	3.3%
大学共同利用機関	4,941	165	3.3%	328	6.6%
高等専門学校	2,375	40	1.7%	45	1.9%
独立行政法人等	16,866	495	2.9%	1,550	9.2%

注) 研究者数は、本調査の在籍研究者数（3章）のデータであり、常勤と非常勤を含む。

5.2 分野別

分野別の在籍研究者数は本調査では質問していないため、総務省統計局「平成 25 年科学技術研究調査」のデータ（平成 24 年度）を使用した。

(1) 短期

短期の派遣研究者数の在籍研究者数に対する比率を分野別に見ると（表 5-3）、理学が最も高く（146.4%）、工学（97.1%）、農学（76.4%）、人文・社会科学（54.5%）、保健（34.9%）が続く。

短期の受入れ研究者数についての比率でも、理学が最も高い（38.4%）。工学（9.5%）、農学（7.9%）、人文・社会科学（5.3%）、保健（2.1%）の順番も短期派遣と同じである。

表 5-3 派遣・受入れ研究者数の在籍研究者数に対する比率（分野別）（短期）

	在籍研究者数 (人) (a)	派遣研究者 数(人) (b)	派遣研究者 数比率 (b/a)	受入れ研究 者数(人) (c)	受入れ研究 者数比率 (c/a)
理学	16,605	24,307	146.4%	6,377	38.4%
工学	46,243	44,882	97.1%	4,393	9.5%
農学	11,888	9,081	76.4%	945	7.9%
保健	84,295	29,394	34.9%	1,782	2.1%
人文・社会科学	77,492	42,207	54.5%	4,085	5.3%

注) 大学等の在籍研究者数は「平成 25 年科学技術研究調査」(総務省統計局)の「教員」と「医局員等」の和(「大学院博士課程の在籍者」は含まない)。「人文・社会科学」は「平成 25 年科学技術研究調査」の「その他」の分野を含む。独法等の在籍研究者数は「平成 25 年科学技術研究調査」において、公的機関の「国営」と「特殊法人・独立行政法人」の和。

(2) 中・長期

中・長期の派遣についても、理学が最も高く、5.7%である。農学(3.8%)、人文・社会科学(2.8%)、工学(2.1%)、保健(0.7%)が続いている。

中・長期の受入れについても、理学が14.6%で最も高く、工学(8.8%)、農学(7.9%)、人文・社会科学(7.7%)、保健(1.9%)の順番である。

表 5-4 派遣・受入れ研究者数の在籍研究者数に対する比率（分野別）（中・長期）

	在籍研究者数 (人) (a)	派遣研究者 数(人) (b)	派遣研究者 数比率 (b/a)	受入れ研究 者数(人) (c)	受入れ研究 者数比率 (c/a)
理学	16,605	946	5.7%	2,429	14.6%
工学	46,243	987	2.1%	4,062	8.8%
農学	11,888	453	3.8%	939	7.9%
保健	84,295	628	0.7%	1,572	1.9%
人文・社会科学	77,492	2,171	2.8%	5,964	7.7%

注) 大学等の在籍研究者数は「平成 25 年科学技術研究調査」(総務省統計局)の「教員」と「医局員等」の和(「大学院博士課程の在籍者」は含まない)。「人文・社会科学」は「平成 25 年科学技術研究調査」の「その他」の分野を含む。独法等の在籍研究者数は「平成 25 年科学技術研究調査」において、公的機関の「国営」と「特殊法人・独立行政法人」の和。

5.3 職位別

(1) 短期

大学等において、短期派遣・受入れ研究者数の在籍研究者に対する比率を職位別に見たのが表 5-5 であるが、職位別に大きな差があることが分かる。

短期派遣では、教授が最も比率が高く 90.4%である。准教授 (77.8%)、ポスドク・特別研究員 (51.2%)、助教／助手 (43.0%)、講師 (13.6%) が続く。ただし、在籍研究者数は常勤・非常勤の双方を含み、講師については非常勤の研究者数が多いことには留意が必要である。常勤の在籍研究者数のみ (17,602 人) に対する比率は、講師では、54.0%となる (職位別の常勤・非常勤研究者数については、図 3-6 参照)。

受入れ研究者数については、職位別の在籍研究者数に対する比率を考えているため、雇用している外国人研究者のみを含み、招へい・来日した研究者数は含まない。そのため、短期 (30 日以内) ではこの数字は小さい。

表 5-5 派遣・受入れ研究者数の在籍研究者数に対する比率 (職位別) (大学等、短期)

	在籍研究者数 (人) (a)	派遣研究者 数 (人) (b)	派遣研究 者数比率 (b/a)	受入れ研 究者数 (人) (c)	受入れ研究 者数比率 (c/a)
ポスドク・特別研究員	17,549	8,993	51.2%	133	0.8%
助教／助手	48,323	20,784	43.0%	42	0.1%
講師	69,957	9,505	13.6%	55	0.1%
准教授	44,648	34,730	77.8%	96	0.2%
教授	75,560	68,300	90.4%	313	0.4%

注) 研究者数は、本調査の在籍研究者数 (3 章) のデータであり、常勤と非常勤を含む。受入れ研究者数は雇用している外国人研究者のみで、招へい・来日した研究者数は含まない。

独法等では、短期派遣研究者数の在籍研究者数に対する比率は、主任研究員以上において非常に高く 214.8%である。ポスドク・特別研究員 (66.9%)、一般研究員 (42.9) が続く。独法等においても、大学等と同様、受入れ研究者数については、雇用している外国人研究者のみを含んでいるため、短期ではこの数字は小さい。

表 5-6 派遣・受入れ研究者数の在籍研究者数に対する比率（職位別）（独法等、短期）

	研究者数 (人) (a)	派遣研究者数 (人) (b)	派遣研究者数比率 (b/a)	受入れ研究者数 (人) (c)	受入れ研究者数比率 (c/a)
ポスドク・特別研究員	3,034	2,029	66.9%	25	0.8%
一般研究員	8,677	3,719	42.9%	13	0.1%
主任研究員以上	5,078	10,907	214.8%	4	0.1%

注) 研究者数は、本調査の在籍研究者数（3章）のデータであり、常勤と非常勤を含む。受入れ研究者数は雇用している外国人研究者のみで、招へい・来日した研究者数は含まない。

(2) 中・長期

大学等の中・長期派遣ではポスドク・特別研究員等が 4.6%で最も高く、准教授と助教／助手がそれぞれ 2.5%と 2.4%であり次に高く、教授（1.7%）、講師（0.5%）と続く。講師について、短期と同様に常勤の在籍研究者数に対する比率を計算すると、1.9%となり、ほど教授と同程度である。

受入れ研究者の中・長期派遣についても、ポスドク等が 14.8%で最も高かった。次が准教授で 3.5%である。教授と講師は 2.5%、助教／助手は 2.1%であり、同程度だった。

表 5-7 派遣・受入れ研究者数の在籍研究者数に対する比率（職位別）（大学等、中・長期）

	研究者数 (人) (a)	派遣研究者数 (人) (b)	派遣研究者数比率 (b/a)	受入れ研究者数 (c)	受入れ研究者数比率 (c/a)
ポスドク・特別研究員	17,549	801	4.6%	2,601	14.8%
助教／助手	48,323	1,141	2.4%	1,018	2.1%
講師	69,957	329	0.5%	1,725	2.5%
准教授	44,648	1,099	2.5%	1,569	3.5%
教授	75,560	1,303	1.7%	1,859	2.5%

注) 研究者数は、本調査の在籍研究者数（3章）のデータであり、常勤と非常勤を含む。受入れ研究者数は雇用している外国人研究者のみで、招へい・来日した研究者数は含まない。

独法等の中長期派遣では主任研究員以上が 5.9%で最も高い。ポスドクが 2.3%、一般研究員は 1.3%である。

他方、中・長期の受入れ研究者については、ポスドク等が最も高く 23.7%である。主任研究員以上が 3.6%、一般研究員が 2.5%で続く。

表 5-8 派遣・受入れ研究者数の在籍研究者数に対する比率（職位別）（独法等、中・長期）

	研究者数（人） (a)	派遣研究者数（人） (b)	派遣研究者数比率 (b/a)	受入れ研究者数 (c)	受入れ研究者数比率 (c/a)
ポスドク・特別研究員	3,034	70	2.3%	720	23.7%
一般研究員	8,677	117	1.3%	215	2.5%
主任研究員以上	5,078	301	5.9%	184	3.6%

注) 研究者数は、本調査の在籍研究者数（3章）のデータであり、常勤と非常勤を含む。受入れ研究者数は雇用している外国人研究者のみで、招へい・来日した研究者数は含まない。

5.4 性別

性別については本調査では、中・長期の派遣・受入れ研究者についてのみ質問している。このため、中・長期の派遣・受入れ研究者数の在籍研究者数（男性、女性）に対する比率を、大学等と独法等に分けて比較する。

在籍研究者数については性別の人数は本調査で質問していないため、総務省統計局「平成 25 年科学技術研究調査」のデータ（平成 24 年度）を使用した。

(1) 大学等

大学等では、中・長期の派遣研究者数については、男性が 1.5%、女性が 1.0%であり、男性がやや高かった。

他方、中・長期の受入れ研究者数については、男性が 3.7%、女性が 4.2%であり、女性の方がやや高かった。受入れ研究者数については、前述の職位別の比率を計算する際には、雇用している外国人研究者のみを含み、招へい・来日した研究者数は含まなかったが、ここでの、受入れ研究者数は双方を含んでいる。在籍研究者における女性の割合に比較すると、受入れ研究者における女性の比率がより高いことを示している。

表 5-9 派遣・受入れ研究者数の在籍研究者数に対する比率（性別）（大学等、中・長期）

	研究者数（人） (a)	派遣研究者数（人） (b)	派遣研究者数比率	受入れ研究者数 (c)	受入れ研究者数比率 (c/a)
男性	236,371	3,527	1.5%	8,768	3.7%
女性	78,873	771	1.0%	3,349	4.2%

注) 大学等の在籍研究者数は「平成 25 年科学技術研究調査」（総務省統計局）のデータを用いている。在籍研究者数は「教員」と「医局員等」の和（「大学院博士課程の在籍者」は含まない）。

(2) 独法等

独法等における中・長期の派遣研究者数については、男性は 2.3%、女性は 1.8%であり、やや男性の方が高い。

中・長期の受入れ研究者数については、男性が 6.3%、女性が 10.8%であり、大学等と同様に女性の方が高かった。

表 5-10 派遣・受入れ研究者数の在籍研究者数に対する比率（性別）（独法等、中・長期）

	研究者数 (人) (a)	派遣研究者数 (人) (b)	派遣研究 者数比率	受入れ研究 者数 (c)	受入れ研究 者数比率 (c/a)
男性	19,128	439	2.3%	1,214	6.3%
女性	3,076	56	1.8%	331	10.8%

注) 大学等の在籍研究者数は「平成 25 年科学技術研究調査」(総務省統計局)のデータを用いている。の在籍研究者数は、公的機関の「国営」と「特殊法人・独立行政法人」の和。

